

県下の公共資料館等が所蔵する四国遍路関係資料

—その保存と活用—

宮 瀬 温 子

はじめに

本稿では、県内の公立の資料館等が所蔵する四国遍路の資料の調査概要、及びその保存と活用について述べたい。

このような調査を実施することになったのは、筆者の勤務先である愛媛県歴史文化博物館（以下、当館と記す）で所蔵している四国遍路資料の目録（１）の編集がきっかけであった。

当館では、四国遍路の常設展示室を設置し、開館以来四国遍路資料の収集を行っている。また、資料の収集や整理の成果として、毎年一冊以上の資料目録を刊行しており、平成一六年度は四国遍路に関する資料を刊行することになった。

この目録を作る機会に、当館の資料だけではなく、県内の公共資料館が所蔵する四国遍路関係の資料についても目録作成を行いたいと思うようになった。というのも、目録編集に取り掛かった平成一六年当時、そういった資料の情報が一元化されておらず（２）、逐一各館に問い合わせしていたのが現状だったからである。また、ひとくちに四国遍路の資料といっても、その形態は実に様々である。絵図、版本、写本といった文献資料から、遍路用具等の民具。札所を描いた絵画資料もある。その為、全容を掴む上でも、調査の必要を感じていた。

調査の概要

調査期間は、平成一六年七月から翌一七年一月の半年間だったが、時間が足りず、調査にうかがえなかった館もある。この半年間は、県内の多くの市町村で合併が行われた時期でもあった。各資料館や教育委員会の担当の方々には、合併に関する業務で大変お忙しい中、資料調査や目録掲載手続きに関してご協力いただいた。改めて御礼申し上げたい。

調査前にまず、既存の目録から、資料の所在確認を行った。県内の資料館が所蔵する資料の目録としては、『愛媛県博物館資料総合目録 第４集（民俗文化財）』（３）が刊行されている。当目録は各資料館から提出された資料リストで作成された目録なので、館によって精粗はあるが、多くの資料をここから抽出することができた。しかし、問い合わせをした資料館によって、目録に載っている資料が見当たらなかった、ということもあった。

また、目録に資料が載っていないところにも問い合わせを行った。以前、別の調査で訪れた際に、四国遍路の資料があるのを確認していた館もあったため、そのようなところも、改めて調査を行った。

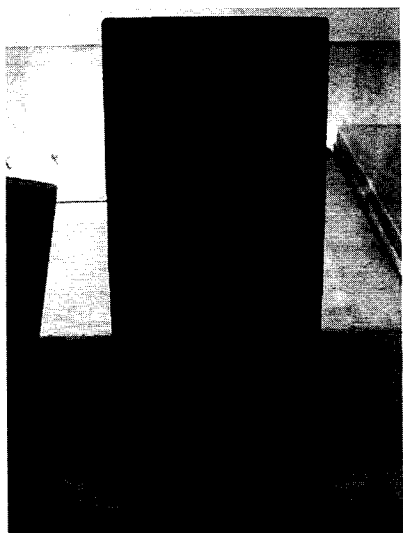
調査方法は、閲覧して写真を撮り、法量を測って、銘文がある場合は移すといったもので、あくまでも概要調査である。個別の資料の詳細は調査していないのでご了承願いたい。

表1 資料の概要

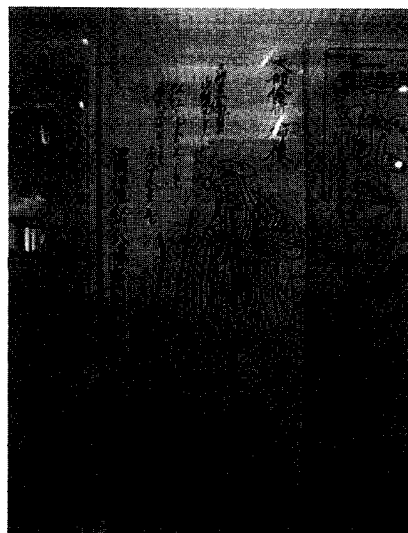
館 名	件数	資 料 の 概 要
五十崎歴史民俗資料館（内子町）	9	遍路用具（札挟み、金剛杖など）
一本松郷土資料館（愛南町）	34	遍路用具（納め札など【写真1】）、篠山の遥拝所で配布された刷り物とその版木(4)【写真2、3】、四国徧礼道指南など
内海郷土資料館（愛南町）	1	遍路用の運搬具【写真4】
内子町歴史民俗資料館	2	菅笠
宇和民具館（西予市）	40	遍路用具（札挟み、納め札など）、弘法大師掛け軸
愛媛県美術館	1	四国中央市出身の洋画家・坂田虎一の水墨画「四国霊場八十八ヶ所」88点。
大洲市立博物館	1	接待帳（明治36～大正12年に大洲市長谷地区で行われた接待関係の出納簿）。
かわのえ高原ふるさと館（四国中央市）	2	道標。（四国中央市内に建てられていたもの。文政13年、天保6年建立が各一基）(5) 【写真5】
久万高原ふるさと旅行村（久万高原町）	2	納め札の入った俵、納経帳
東温市立歴史民俗資料館	3	案内書、往来手形、菅笠
中島歴史民俗資料館〔懐古館〕（松山市中島町）	11	札挟み3点、納経帳2冊、菅笠、遍路の運搬具など
ふるさと歴史公園（今治市伯方町）	8	納経帳6冊、菅笠、納め札の版木（安政7年）
保内中央公民館（八幡浜市）	4	納経帳2冊、札挟み2点
町見郷土館（伊方町）	18	遍路用具、納経帳3冊、往来手形3枚など
村上三島記念館（今治市上浦町）	4	納経帳2冊（うち1冊は県内に現存する最古のもの〔宝暦3年〕寄託資料(6)）、川端龍子作「四国遍路」草描画90点及び巡拝記原稿89点一式(7)
村上水軍博物館（今治市宮窪町）	1	大島島四国写真（1冊のアルバムに貼付。昭和30年代半ばか）【写真6】
吉海郷土文化センター（今治市吉海町）	176	168件は、大島島四国の普及に尽力した渡辺暁童氏（吉海町初代教育長の渡辺鶴一氏。暁童は号）の収集資料及び著作物。島四国の写真やポスター、ガイドブック、他の地四国のガイドブックなど。8件は、島四国接待品の竹細工や遍路用具など。
合 計	317	



【写真1】納め札（一本松郷土資料館 蔵）



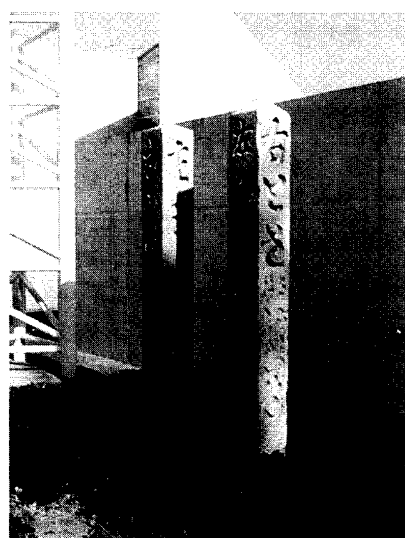
【写真2】版木／弘法大師と衛門三郎
(一本松郷土資料館 蔵)



【写真3】刷り物／弘法大師と衛門三郎
(一本松郷土資料館 蔵)



【写真4】遍路の還搬具
(内海郷土資料館 蔵)



【写真5】道標
(かわのえ高原ふるさと館 蔵)



【写真6】大島島四国の写真(村上水軍博物館 蔵)

資料の概要

調査に伺つてみると、予想以上に多くの点数、そして多岐に渉る分野の資料が確認できた。各資料館の所蔵資料の概要は、表1を参照されたい。

全体的に、遍路自身が所持した納め札（一本松郷土資料館蔵【写真一】）や遍路用具等（内海郷土資料館蔵等【写真四】）の資料が多かったが、なかには、遍路道近くの地域が行った接待帳（大洲市立博物館蔵）のように、遍路を迎えた側の資料もあった。篠山の遥拝所に関する資料（一本松郷土資料館蔵【写真二、三】）は、かつての遍路の道程を示すとともに、四国における遍路絵図作成の事例として、早くから紹介されている（4）。市内から移設され、資料館の敷地内に保存された道標（かわのえ高原ふるさと館蔵【写真五】）は、県内の資料館が所蔵する数少ない道標である。

時代別にみても、江戸時代の資料（宇和民具館、町見郷土館蔵等）から近現代の資料（五十崎郷土資料館蔵等）まで、幅広い年代の資料が確認できた。

また、本四国の資料だけではなく、大島島四国の資料（村上水軍博物館【写真六】、吉海郷土文化センター蔵）の充実も、地域に密接した資料館ならではの特徴といえるだろう。

今後、これらの資料が詳細に調査、分析され、四国遍路の新たな面が明らかにされることを期待したい。

なお、前述の通り未調査の館もあるため、今後調査を続け、ある程度進んだ段階で、また何らかの形でまとめたいと考えている。

資料の保存と活用について

各地の資料館で資料を調査し、この目録を作成した時期は、前述の通り、ちようど県内で市町村合併が進んだ時期でもあった。そのような繁多な時期に調査に伺つてみると、資料館の在り方も、大きく変化を求められているこ

とを痛感せざるを得なかった。

市町村合併を契機とした資料館の統廃合の動きなどは、まだ県内では起こっていないが、今後見直しの論議が出てくる可能性もある。そうした場合に、より良い方向に見直しできるように、資料の活用を進めておくことが今後の課題といえる。資料の意味や価値が認識され、活用され、広く周知されると、資料館や資料への関心も高まるのではないだろうか。資料の役割と資料館の存在意義が認められ、この地域で使われたもの、この地域の人が使ったものだから、大事に守つていこうという意識を育むうえからも、資料館の資料が、多方面で活用されることを願う。

目録に収録した資料の中には、註で紹介しているように、研究者によつて既に紹介された資料もある。しかし、全体的に各資料館における資料の存在は、研究者にも、地域の人々にも、あまり知られていないのではないだろうか。

四国遍路の資料は、常設展示室で展示している資料館も多い。常設展示室に展示すると、いつでも観覧できるという大きなメリットがある。その一方で、多くの資料が展示されている中では、観覧者が強く意識しないと見逃してしまうことも起こりえるのではないだろうか。

幸い、どの所蔵先においても、資料の状態は概ね良い。破損がひどく展示できない、という資料はほとんどない。保存しながらの活用、つまり保存と活用の両立が可能であると思われるので、活用の幅を広げていってもらいたい。

例として、巡礼や遍路に関する特集展示の実施や、地元文化祭への展示、地域の学校における郷土学習の教材などが考えられる。より多くの人の目に触れるよう、「うちの資料館には四国遍路の資料があるんだ」と意識して、地元でも活用していただきたい。そして、外部の研究者や博物館関係者の方も、県内各地の資料館の資料を活用していただきたい。地元という内からの活用と外からの活用の両方が、より望ましいのではないだろうか。

愛媛県歴史文化博物館所蔵 四国遍路関係資料について

当館の四国遍路に関する資料のうち、開館後、平成一六年一二月迄に収集して資料整理が完了した資料は、目録に収録している。

資料の内訳は表二、三のとおりである。表二の項目で、四国遍路とは四国遍路全体に関する資料、札所とは、個々の札所に関する資料、四国遍路以外の巡礼や参詣とは、西国巡礼や金毘羅参詣などの資料を指している。当館の所蔵資料は、閲覧・写真撮影・複写といった調査や、刊行物への掲載・フィルム貸し出し等が可能である。未整理の資料は目録には掲載していないが、調査できる資料もあるので、お問い合わせ願いたい。

愛媛県歴史文化博物館の四国遍路関係資料

表2 館蔵資料の内訳（遍路用具以外）

	絵図	書籍	刷り物	掛け軸	文書	その他
四国遍路	13(8)	12	2	1	2	11 (道中記録(9)、民具、写真など)
遍路宿						2 (宿帳(10)、ピラ)
札所	9	2	6		4	2 (書簡)
地四国	6	5	1			
弘法大師		10	5	33		2 (卷子、写本など)
四国遍路以外の巡礼・参詣	20	8	3		1	5 (パンフレットなど)
その他		1				

表3 館蔵資料の内訳（遍路用具）

	札挟み	手甲	脚半	遍路の運搬具	頭陀袋	先達章	納め札に関する資料
遍路用具(11)	9	1	1	1	2	3	1
	数珠	杖	御影帳	納め札	講中札	納経帳	讃仏歌集
	1	2	1	18	22	6	1

申請方法は、事前に、希望する資料や日時について連絡をいただいたうえで、申請書類を提出、書類が博物館に到着後、一週間ほどで手続きが完了する。問い合わせ先は、本稿文末に記している。

おわりに

ここ数年、筆者の日常の中でも、お遍路さんを見かけることが多くなったように思う。国道沿いの歩道を歩く「歩き遍路」と称される、歩いてお遍路する人、駅やバス停で見かける交通機関を利用する人、団体バスに乗っている人。様々なメディアでも四国遍路が取り上げられるようになった。八十八ヶ所の各札所を紹介するテレビ番組「四国八十八ヶ所」(12)や講談社『週刊 四国八十八ヶ所遍路の旅』(全三〇巻)(13)も製作された。新聞社主催で、四国遍路をテーマとする大規模な巡回展示「四国霊場八十八ヶ所 空海と遍路文化展」(14)、「四国八十八ヶ所 へんろ文化と美術展」(15)も開催された。歩き遍路を主人公としたテレビドラマ「ウォーカーズ」(16)の放映も記憶に新しい。

メディア以外に目を向けても、注目の高さは同様である。県内の大学でも、愛媛大学や今治明德短期大学では、四国遍路を授業に取り入れている。先程述べた遍路数の増加も影響しているのであろうか、インターネットでは遍路体験記や四国遍路をテーマとした様々なホームページを検索できる。このような注目度の高さによるものか、平成一一年以降、表四にあるように、当館所蔵資料の調査や写真提供などの依頼も続いている(17)。博物館業務に携わりながら、四国遍路は益々注目されていることを実感している。四国遍路を世界遺産へという取り組みは、十年近く前から始まり(18)、その後、様々な団体が世界遺産登録へ向けての取り組みを行ってきた。

平成一八年秋に文化庁が、世界遺産暫定一覧表への追加提案を募集し、同年十一月には、四国四県が、共同で「四国八十八箇所霊場と遍路道」を世界

文化遺産候補として、文化庁へ提案した。継続審査となったものの、四国遍路に向けられるまなざしは、今後、益々熱くなっていくだろう。そのような中で、博物館・資料館は何をするべきなのか、何ができるのか、暗中模索の日々である。ただ一つ言えるのは、博物館は、資料の収集整理保存、教育普及、調査研究を行う施設である。そういった博物館ならではの特色を活かすことを念頭に置いた活動を行っていきたいと考えている。

最後になりましたが、研究集会での発表と本プロシーディングスにおける執筆の機会を与えて頂いた「四国遍路と世界の巡礼」研究会に、厚く御礼申し上げます。

表4 愛媛県歴史文化博物館所蔵の四国遍路関係資料の利用状況

年度	閲覧・写真撮影・貸し出しなどの申請件数
11	4
12	9
13	6
14	8
15	2
16	11
17	8

註

- (1) 愛媛県歴史文化博物館編『四国遍路関係資料Ⅰ』平成一七年
- (2) 「四国遍路と世界の巡礼」研究会代表の内田九州男教授が、全国の博物館・歴史民俗資料館・文書館及び四国内の県立図書館に対して、四国遍路の資料のアンケート調査を実施されている。そのデータは『四国遍路と世界の巡礼 人的移動・交流とその社会的アプローチ』（平成一七年、平成一四〜一六年度科学研究費補助金研究成果報告書）に掲載されている。
- (3) 愛媛県立博物館『愛媛県博物館資料総合目録 第4集（民俗文化財）』昭和五五年

- (4) 喜代吉榮徳「いわゆる四国偏礼絵図について」『四国辺路研究』第二四号、一九九四年
- (5) 川之江市教育委員会編『川之江の道標』一九八八年
- (6) 小松勝記氏によって全頁写真掲載、翻刻されている。（四国遍路研究会編『四国遍路研究叢書 第四号 宝暦年間の納経帳と四国偏礼絵図』平成一六年）
- (7) 川端龍子『川端龍子 詠んで描いて 四国遍路』小学館、二〇〇二年
- (8) 遍路絵図の中で、宝暦一三年の四国遍路絵図【写真七】は、小松勝記氏によって全面写真掲載、翻刻されている。（註6）
- (9) 道中記の中で、四国西国順拝記【写真九】は、井上淳「資料紹介 四国西国順拝記」『愛媛県歴史文化博物館 研究紀要』第六号（二〇〇一年）、「道中記にみる四国遍路―四国西国順拝記を中心に―」『同研究紀要』第十一号（二〇〇六年）を参照されたい。
- (10) この宿帳【写真一二】は、星野英紀氏が詳細に分析され、昭和初期の遍路の特徴について論じられた。（『四国遍路の宗教学的研究 その構造と近現代の展開』、第四章 近代の四国遍路（2）、法蔵館 二〇〇二年）当館へは、星野氏からご寄贈いただいた。
- (11) 遍路用具の中で、昭和一一年の遍路の所持品【写真一三】と、その道中については、印南敏秀「戦前の女四国遍路（『技と形と心の伝承文化』所収、慶友社、二〇〇二年）」に詳述されている。当館へは、印南氏からご寄贈いただいた。
- (12) NHK、平成一一年
- (13) 講談社、平成一七年
- (14) 毎日新聞社等主催、二〇〇二〜二〇〇三年
- (15) 日本経済新聞社主催、平成一六年
- (16) NHK、平成一八年

(17) 『年報』平成一一年度～同一七年度（愛媛県歴史文化博物館）の資料の貸出・特別利用の一覧より作成した。

(18) 平成一〇年一月二四日（土）、四国霊場第五八番札所仙遊寺において開催された、えひめ地域づくり研究会議『九七年度フォーラム』（えひめ地域づくり研究会議・（財）愛媛県まちづくり総合センター主催）で仙遊寺宣言が採択された。その中で、「「四国遍路文化」を世界遺産に登録する運動を、本日を起源として開始する。」と記されている。「四国へんろ道文化」世界遺産化の会も結成され、活動している。なお、仙遊寺宣言については、仙遊寺ホームページに拠る。

<http://www16.ocn.ne.jp/~senyui/> 2006.12.28

本稿への資料写真の掲載にあたり、各資料館・教育委員会及びご担当の左記の方々に大変お世話になりました。記して深謝申し上げます。

愛南町教育委員会、かわのえ高原ふるさと館、村上水軍博物館、木浦美雪、田中謙、藤本吉信
(敬称略、五十音順)

愛媛県歴史文化博物館所蔵の四国遍路関係資料に関しては、左記までお問い合わせ下さい。

〒797-0015

西予市宇和町卯之町四―一―二

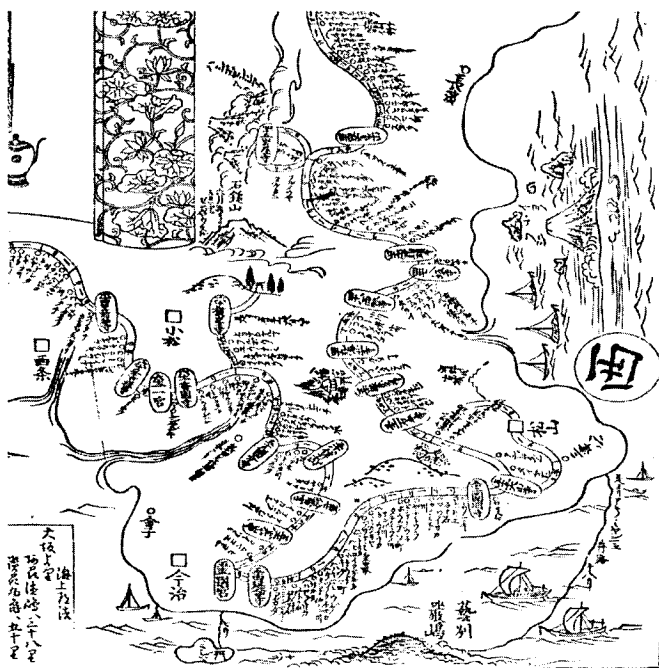
愛媛県歴史文化博物館 学芸課 宮瀬

tel (〇八九四) 六二―六二二二

fax (〇八九四) 六二―六二六二

E-mail miyase-haruko@pref.ehime.jp

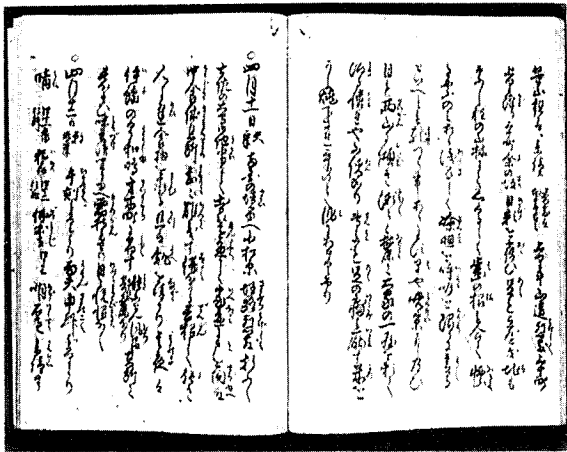
写真7～13の資料は、全て愛媛県歴史文化博物館蔵



【写真7】四国遍礼絵図（部分）／宝暦13(1763)年



【写真8】象頭山参詣道四国寺社名勝八十八番／江戸時代後期



【写真9】四国西国巡拝記／文化6(1809)年



【写真10】御府内八十八ヶ所道しるべ／慶応2(1866)年



【写真11】江戸時代の遍路の所持品／
文政11(1828)年



【写真12】遍路宿帳／昭和7～18(1932～43)年



【写真13】昭和初期の遍路の所持品／昭和11(1936)年
(下の写真も同じ)

